

多 久 議会だより

2021


令和3年
3月定例会
第48号



杉の子保育園「端午の節句」

| | |
|--------|-------|
| 審査報告 | P2~4 |
| 議案質疑 | P5 |
| 一般質問 | P6~11 |
| まちで発見! | P12 |



弥 生 時 代

多久の歴史

前回の「議会だより」では、人の営みが始まりだした多久の旧石器時代から(日本最大規模の石器工房群があったとされる)を紹介しました。今回は、多久の弥生時代にスポットを当てて紹介したいと思います。

【弥生式文化時代の始まり】

中国で秦が天下を統一し、漢がやがて帝国を建設しようとするころ、北九州を中心として新しい文化が芽生えてきました。金属器や農耕用石器(大型 蛤刃石斧・片刃石斧・石包丁)と共に稲作文化が流入し、弥生式文化が開花しました。やがて、弥生式文化は富の蓄積から階級の分化、職業の分化をもたらし、農耕生活の為の共同体は部落小国を生みだしました。多久地方では沖積平野(河川による堆積作用によって形成される地形)に恵まれず、大規模な文化は発達しなかったようです。



石包丁

【多久の弥生文化】

この時代の生活舞台は、水田農耕文化の影響により沖積平野を求め低地化し河川の近くに移民農耕のために定住化、住居(竪穴式住居・高床式家屋)を建て、集団化してきました。

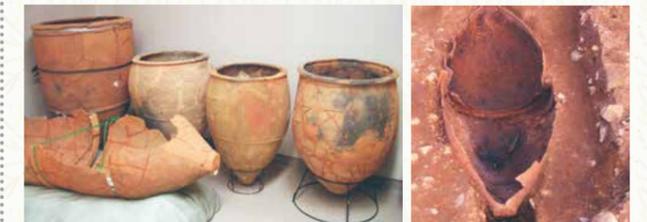


牟田辺空撮

農耕が日常生活を支えるよ

うになったことは弥生式土器の出現によりうかがえます。縄文土器のように多種多様で個性や地域性があるものは少なく、規格化した手法で制作され、用途的にも大型化し、食物の貯蔵用や米を蒸すための蒸器用土器も出土しました。また、弥生時代の石鏃が出土することから、縄文時代に生活を支えてきた狩猟生活は従的存在になっていたと思われます。

死者を葬る場合、縄文時代は土中に穴を掘り(土壙)体を曲げて屈葬が行われていましたが、大陸から土器制作新技術の流入により大型の甕を作り合わせ口甕棺・石蓋石棺葬が行われるようになり、また、一方では板石状のものを四角に立て並べて蓋石で覆った箱石棺に使用者を葬る習慣も発生してきたようです。



甕棺葬の展示(資料館) 甕棺葬71号(銅剣出土)

遺跡から判断することは困難ではありますが、弥生時代の比較的大きな集落は遺跡の規模、遺物などから考えて現在の牟田辺・宝蔵寺・大工田・中小路付近でないかと思われます。

農耕文化の発生は必然的に貧富の差をもたらし、階級が発生し豪族が生まれることで、豪族を中心に社会が構成されて行きます。

今回のまちで発見!は「古墳時代・古代国家の栄え」をお送りします。

聖光寺の二千年ハス

多久聖廟の南側にある聖光寺のハス池には、千葉県の落合遺跡から発掘された約2,000年前(弥生時代)のハスの実から発芽、開花させた古代蓮が育成されています。6月中旬から7月中旬の早朝の時間帯に花が咲きます、ぜひ観に来ていただき古代の風景を感じてください。



UDFONT

見やすく読みやすいフォントを採用しています。

VEGETABLE OIL INK
環境に優しい植物油を使用しています。

| | |
|-------|--------|
| 委員 | 委員 |
| 野北 悟 | 榊島 永二郎 |
| 正則 悟 | 古賀 公彦 |
| 委員 | 副委員長 |
| 香月 野北 | 田淵 義彦 |
| 委員 | 委員 |
| 野北 悟 | 榊島 永二郎 |
| 正則 悟 | 古賀 公彦 |
| 委員 | 副委員長 |
| 香月 野北 | 田淵 義彦 |

